

令和 2 年 6 月 8 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16K03083

研究課題名（和文）敦煌石窟における供養人像の歴史学的研究

研究課題名（英文）Historical Study of Donor Portraits in the Dunhuang Caves

研究代表者

坂尻 彰宏（Sakajiri, Akihiro）

大阪大学・全学教育推進機構・准教授

研究者番号：30512933

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、敦煌石窟に描かれた供養人像を分析するための指標を作成し、それに基づいて供養人像の記録を分析し、供養人像を史料として用いる歴史研究の方法を提示した。従来の歴史研究、服飾史研究、美術史研究等の諸分野において供養人像を史料として扱う手法は、未だに確立されておらず、本研究の提示した研究成果ならびに研究方法は、これまでにない新規性を持ち、今後の学術研究に大いに裨益するものとなった。なお、ここで言う敦煌石窟とは中国・甘粛省の敦煌市周辺に位置する莫高窟・榆林窟等の石窟寺院の総称である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

敦煌石窟の造営に関わった供養人（供養者、寄進者）の像については、これまで本格的な調査研究がほとんど行われて来なかったが、本研究では現地で実際に供養人像を観察し、詳細な記録を取り、それを分析するための詳しい指標を作成し、供養人像を史料として用いる方法を提示した。本研究で収集・整理・発表した供養人像の情報は、これまで欧米や現地の機関・研究者の研究報告にも無いユニークな情報であり、国内外の学会の学術研究に大いに裨益するものである。

研究成果の概要（英文）： In this study, we made an guideline to analyze the donor portraits drawn in the Dunhuang Caves. Based on that, we records and analyzed the donor portraits in the Dunhuang Caves. We presented a method of historical research using the donor portraits. Conventional fields such as history, fashion history, and art history have not established a method of treating the donor portraits as historical materials. The results and methods of our studies have novelty as never before. It will be very useful for future academic research. The Dunhuang Caves referred to here are a general term for cave temples such as Mogao Caves and Yulin Caves located in the vicinity of Dunhuang City in Gansu Province, China.

研究分野：東洋史学

キーワード：敦煌石窟 供養人像 銘文 榆林窟 莫高窟 現地調査 調査指標

1. 研究開始当初の背景

シルクロードの重要拠点である敦煌周辺には、莫高窟をはじめとする敦煌石窟(図1参照)が開かれている。その内部には、石窟の造営に関わった供養人(供養者、寄進者)の像が多く描かれており(図2参照)、その総数は莫高窟だけでも9000身余に及ぶ(「身」は供養人の単位)。描かれた供養人像は、敦煌石窟を支えた重要人物のものであり、造営当時の社会や信仰の在り方を写し出した極めてユニークな材料といえる。

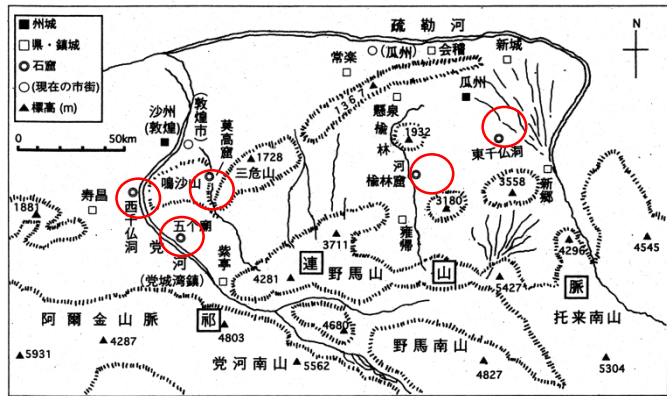


図1 敦煌石窟の主要な石窟(図中の○印)

しかし、従来に関連諸分野における研究では、これらの供養人像を詳細に分析し研究材料として活かした研究はなされてこなかった。例えば、文書や典籍を用いた歴史学の分野では、供養人像そのものよりも像に付けられた題記(個々の供養人の地位や名前を表示した銘文)の解読と使用に注意が向けられてきた。また、服飾史の分野では、供養人像の服装の詳細やその類型化に焦点が当てられ、それ以外の要素は概ね捨象されてきた。さらに、仏教壁画を研究の中心にする美術史の分野では美術的価値が低く、仏教經典の内容との関連も薄い供養人像は、ほとんど無視されてきた。このような事情を反映して、敦煌石窟の供養人像自体に関する記録は極めて少なく、その写真の公刊すら、ほとんど行われていなかった。



図2 供養人像(莫高窟第98窟甬道北壁)

2. 研究の目的

本研究は、これまで本格的な調査研究がほとんど行われて来なかった敦煌石窟の供養人像を活用するために、敦煌石窟に描かれた供養人像を分析するための指標を作成し、それに基づいて供養人像の記録を分析し、供養人像を史料として用いる歴史研究の方法を確立することを目的とした。

3. 研究の方法

本研究では、現地の石窟調査に基づいて指標を作成し、供養人像を分析し、史料としての使用に耐えるよう情報の整理を試みた。

まず、敦煌石窟での現地調査を行った。調査対象は多くの供養人像が描かれている敦煌・莫高窟ならびに瓜州・榆林窟である。調査は、2016年から2019年にかけての四年間に四回にわたり、いずれも12月の厳冬期に行った。敦煌・莫高窟で調査した石窟数は、2016年に20窟、2017年に52窟、2018年に29窟、2019年に13窟である。また、瓜州・榆林窟で調査した石窟数は、2016年に17窟、2017年に17窟、2018年に13窟、2019年に12窟である。調査

にあたっては、供養人像の大きさ、石窟内の位置、像の向いている方向、衣服（色・デザイン）、持ち物（香炉・笏など手持ちの道具）、装飾（装身具など）等を詳細に計測・記録した。あわせて、供養人像に付随する題記、石窟の造営や宗教行事に関する銘文、巡礼者が記念に書き残した銘文（落書きの類）などの銘文の調査も行った。

つぎに、調査結果から、供養人像の形態や特徴のチェック項目をリストアップし、統一した方法で記録・分析できるよう整理した。さらに、供養人像の情報を類型化した上で、その情報をカタログ化した。また、石窟内の供養人像の配置を明確にするために簡便な石窟ごとの詳細な図解も作成した（図3参照）。

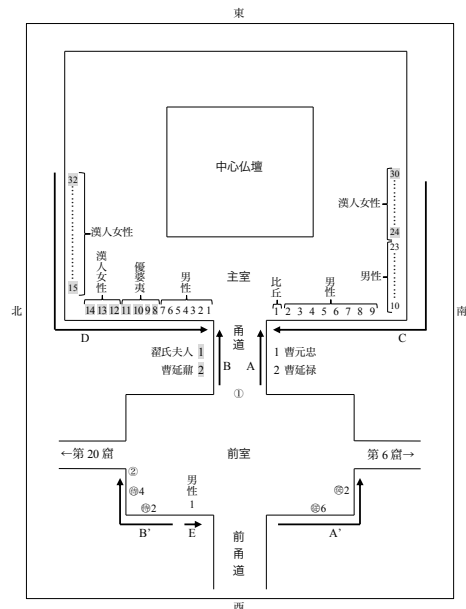


図3 石窟の図解（榆林窟第19窟）

4. 研究成果

まず、これらの調査研究の成果の一部を国際敦煌学会（International Conference on Dunhuang Studies, Cambridge 2019、於 連合王国、ケンブリッジ大学、2019年4月17日、18日）にて報告した。報告者は、代表者の坂尻彰宏、連携研究者の岩本篤志・赤木崇敏からなる三名である。報告題目等は「5. 主な発表論文等」の通りである。坂尻報告は榆林窟の供養人像と地域社会や榆林窟の信仰圏について論じ、岩本報告は敦煌石窟中の出行図（貴人の行列を描いた図）の内容と意義を整理し、赤木報告は敦煌石窟に描かれる在地権力者の供養人像により権力者による石窟造営や仏教信仰について論じた。これらの報告は、供養人像の調査結果を歴史史料として活用したものであり、題材・方法論ともユニークな研究として、当該学会において概ね高い評価を得ることができた。

また、これまでの研究成果を成果報告書にまとめて印刷するとともに、その電子版を代表者が所属する大阪大学の機関リポジトリ（OUKA）に登録し、無償かつ無制限に公開した。報告書に掲載した記録や調査報告は、とりわけ、これまで情報が限られてきた榆林窟の石窟に焦点が当てられており、国内外の学術研究に大いに裨益する内容になっている。

なお、敦煌石窟の供養人像については、それらが示す信仰圏や地域の人々の信仰のありかた、地域社会の実像や在地の権力と統治の実際など、今後さらに追求するべき課題が多い。本研究の成果をもとに、さらなる調査・研究の進展を目指したい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計24件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 赤木崇敏	4. 巻 3
2. 論文標題 「曹氏帰義軍節度使系譜考 両支譜系所見10 11世紀の敦煌史」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『丝路文明』	6. 最初と最後の頁 111-136
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤木崇敏	4. 巻 13
2. 論文標題 「曹氏帰義軍節度使時代の敦煌石窟と供養人像（二）」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『敦煌写本研究年報』	6. 最初と最後の頁 79-98
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 岩本篤志	4. 巻 56
2. 論文標題 「敦煌石窟出行図小考 榆林窟第12窟慕容氏出行図の成立をめぐって」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『立正大学人文科学研究所年報』	6. 最初と最後の頁 17-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂尻彰宏	4. 巻 33
2. 論文標題 「帰義軍節度使と公文書処理」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『内陸アジア言語の研究』	6. 最初と最後の頁 11-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 赤木崇敏・坂尻彰宏	4. 巻 1
2. 論文標題 榆林窟供養人叙録選注	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『敦煌石窟多言語資料集成』、松井太・荒川慎太郎(編)、東京、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	6. 最初と最後の頁 403-481
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂尻彰宏・赤木崇敏	4. 巻 1
2. 論文標題 「榆林窟第12 窟主室西壁門上漢文誓文」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『敦煌石窟多言語資料集成』、松井太・荒川慎太郎(編)、東京、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	6. 最初と最後の頁 490-491
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂尻彰宏	4. 巻 1
2. 論文標題 「榆林窟第25 窟前室東壁門上漢文功德記」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『敦煌石窟多言語資料集成』、松井太・荒川慎太郎(編)、東京、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	6. 最初と最後の頁 492-493
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂尻彰宏	4. 巻 1
2. 論文標題 「莫高窟天王堂塔内東壁門上漢文功德記」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『敦煌石窟多言語資料集成』、松井太・荒川慎太郎(編)、東京、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	6. 最初と最後の頁 494-495
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩本篤志	4. 巻 1
2. 論文標題 「榆林窟第12窟 - 慕容夫妻出行図の解説 - 」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『敦煌石窟多言語資料集成』、松井太・荒川慎太郎(編)、東京、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	6. 最初と最後の頁 482-483
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩本篤志	4. 巻 12
2. 論文標題 「浜田徳海旧蔵敦煌文献再考 - 国立国会図書館本と北京伍倫国際拍賣公司本をめぐって」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『敦煌写本研究年報』	6. 最初と最後の頁 131-146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤貴保	4. 巻 1
2. 論文標題 「敦煌石窟西夏期漢文墨書・刻文集成」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『敦煌石窟多言語資料集成』、松井太・荒川慎太郎(編)、東京、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	6. 最初と最後の頁 403-481
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤貴保	4. 巻 28
2. 論文標題 「カラホト出土軍籍から見た西夏王国国境地帯の状況」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『比較文化研究』	6. 最初と最後の頁 43-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤木崇敏	4. 巻 1
2. 論文標題 「莫高窟第202・205窟の供養人像」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『敦煌石窟多言語資料集成』、松井太・荒川慎太郎(編)、東京、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	6. 最初と最後の頁 484-489
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤木崇敏	4. 巻 なし
2. 論文標題 「曹氏帰義軍節度使系譜攷 2つの家系から見た10～11世紀の敦煌史」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『敦煌・吐魯番文書の世界とその時代』	6. 最初と最後の頁 237-261
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩本篤志	4. 巻 19
2. 論文標題 「敦煌景教文献と洛陽景教経幢--唐代景教研究と問題点の整理」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『唐代史研究』	6. 最初と最後の頁 77-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩本篤志	4. 巻 19
2. 論文標題 「トハリスタンの仏教遺跡と玄奘 - 立正隊による調査をふまえて」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『唐代史研究』	6. 最初と最後の頁 256-264
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩本篤志	4. 巻 10
2. 論文標題 「何為敦煌文献」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『2016 敦煌学国際聯絡委員会通讯』	6. 最初と最後の頁 145-148
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤貴保	4. 巻 30
2. 論文標題 「榆林窟第29窟供養人像に見る西夏の河西回廊支配」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『比較文化研究』	6. 最初と最後の頁 23-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩本篤志	4. 巻 なし
2. 論文標題 「敦煌石窟出行図研究の現状と課題」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『敦煌石窟における供養人像の歴史学的研究』(本研究成果報告書)	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐藤貴保	4. 巻 なし
2. 論文標題 「瓜州榆林窟西夏期西夏文・漢文題記訂補 2019 年度調査に基づく 」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『敦煌石窟における供養人像の歴史学的研究』(本研究成果報告書)	6. 最初と最後の頁 9-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐藤貴保	4. 巻 なし
2. 論文標題 「瓜州榆林窟第2窟・第3窟西夏供養人像・供養人題記集成（稿）」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『敦煌石窟における供養人像の歴史学的研究』（本研究成果報告書）	6. 最初と最後の頁 13-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 赤木崇敏・坂尻彰宏	4. 巻 なし
2. 論文標題 「榆林窟供養人叙録選注（二集）」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『敦煌石窟における供養人像の歴史学的研究』（本研究成果報告書）	6. 最初と最後の頁 23-123
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 赤木崇敏
2. 発表標題 「曹氏帰義軍節度使時代の敦煌石窟と供養人像（二）」
3. 学会等名 中日敦煌写本文献学術研究会（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岩尾一史・坂尻彰宏
2. 発表標題 「帰義軍期のチベット語公文書 Pelliot tibetain 1171とその歴史的背景」
3. 学会等名 中日敦煌写本文献学術研究会（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 赤木崇敏
2. 発表標題 「10世紀敦煌石窟の供養人像の調査研究 曹氏帰義軍節度使と石窟造営史」
3. 学会等名 内陸アジア出土古文献研究会2017年度第4回例会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 赤木崇敏
2. 発表標題 「敦煌石窟の供養人像調査 五个廟第4窟・莫高窟202・205窟」
3. 学会等名 第59回 中央アジア学フォーラム
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Sakajiri Akihiro
2. 発表標題 "Yulin Caves and Regional Society as seen in Chinese Inscriptions and Donor Portraits around the 10th century."
3. 学会等名 International Conference on Dunhuang Studies, Cambridge 2019 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akagi Takatoshi
2. 発表標題 "Construction Projects and Religious Background of the Dunhuang Caves in the 10th Century: the case of Cao Yuanzhong."
3. 学会等名 International Conference on Dunhuang Studies, Cambridge 2019 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Iwamoto Atsushi
2. 発表標題 "A Fundamental Study of The Procession Scenes in Buddhist Caves Around Dunhuang Focused on The Murong Guiying 's in The Yulin Caves."
3. 学会等名 International Conference on Dunhuang Studies, Cambridge 2019 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

『敦煌石窟における供養人像の歴史学的研究』（本研究成果報告書）、リポジトリ登録URL (http://hdl.handle.net/11094/75896)
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
連携研究者	岩本 篤志 (Iwamoto Atsushi) (80324002)	立正大学・文学部・准教授 (32687)	
連携研究者	佐藤 貴保 (Sato Takayasu) (40403026)	盛岡大学・文学部・准教授 (31203)	
連携研究者	赤木 崇敏 (Akagi Takatoshi) (00566656)	東京女子大学・現代教養学部・准教授 (32652)	